

強度行動障害評価表

氏名[] 評価：平成 年 月 日

行動障害項目	行動障害の内容 (6ヶ月以上継続している)	判定基準		
		1点	3点	5点
1.ひどい自傷	頭部が変形する、鼓膜が破れるような叩き、壁や床への頭打ち、肉が見えるような搔きむしり、失明するような眼のいじり、爪はぎなど。 その他： (※装具(ヘッドギアなど)を着用していない状態を想定して評価する。)	週1～2回	1日1～2回	1日中
2.強い他傷・他害	噛みつき、蹴り、なぐる、髪ひき、頭突きなどの危害を加える。 その他：	月1～2回	週1～2回	1日何度も
3.激しいこだわり	強く指示しても服を脱ぐ、外出を強く拒む、特定の場所に固執、水を流す、触る、過飲水など。 その他：	週1～2回	1日1～2回	1日何度も
4.激しい物壊し	ドア、窓ガラス、家具、寝具、照明類、玩具、眼鏡等破壊し、危害が本人にも周りにも大きい。破衣など。 その他： (※器財や玩具を自由に使用出来る環境を想定して評価する。)	月1～2回	週1～2回	1日何度も
5.睡眠の大きな乱れ	昼夜逆転、ベッドに居れず人や物に危害を加えるなど。 その他： (※問題行動で個室使用者は大部屋を想定して評価する。)	月1～2回	週1～2回	ほぼ毎日
6.食事関係の強い障害	食器、お盆ごと投げる、椅子に座っていられずみんなと食事ができない、異食や拒食、偏食で体の異常きたすなど。 その他： (※離席や盗食防止のため身体拘束は、解放状態を想定して評価する。)	週1～2回	ほぼ毎日	ほぼ毎食
7.排泄関係の強い障害	便をこねる・投げる・壁面になすりつける、頻尿(便)、脅迫的な排尿(便)など。 その他： (※普段の状態(オムツ使用・パンツ使用)で評価する。つなぎ等の予防衣使用者は着用していない状態を想定して評価する。)	月1～2回	週1～2回	ほぼ毎日
8.著しい多動	身体、生命の危険につながる建物からの飛び出し、目を離すとどこへいくかわからない、高く、危険なところに上がるなど。 その他： (※開放病棟で、行動制限なしの状況を想定して評価する。)	月1～2回	週1～2回	ほぼ毎日
9.著しい騒がしさ	周囲が絶えられない様な大声、大泣きが何時間も続くなど。	ほぼ毎日	1日中	絶え間なく
10.パニックがもたらす結果が大変なため処遇困難な状態	パニックが出ると体力的におさまられず、つきあっていかれない状態を呈する。			あれば
11.粗暴で相手に恐怖感を与えるため処遇困難な状態	日常生活のちょっとしたことを注意しても、爆発的な行動を呈し、こちらが恐怖を感じる。			あれば
合計スコア		点		

- ①行動障害が過去半年以上続いていればあてはまる項目に○をつける。行動障害の内容が該当するものは全て○をつける。
この中になければその他の欄に記入する。
- ②3段階の判定基準のどれかに○をつける。
- ③定期薬服用者は服用している状態で評価し、頓用の不穏時薬・不眠時薬・注射などは使用しない状態で評価する。
- ④評価は年1回以上定期的に行い、客観性を高めるためにできるだけ複数職種の評価担当者を決めてチェックする。

4-3 食事摂取について、あてはまる番号に一つだけ○印をつけてください。

⇒4

1. できる	2. 見守り等	3. 一部介助	4. 全介助
--------	---------	---------	--------

※着眼点

- ・通常の食事の介助が行われているかどうかを着目する評価である。(自助具等の使用の有無、要する時間や対象者の能力にはかかわらない)
- ・食事の介助とは、スプーンフィーディングや食卓上できざみながら口に運ぶ場合又は食べこぼしの掃除等を想定する。

★「留意点」

- ① 朝昼夕で状態が異なる場合は、対象者の食事摂取が頻回に行われる場面を想定して判断する。
- ② 時間がかかる場合、落ち着いて食事に集中しないなどの場合は、その状態を「特記事項」に記載する。
- ③ 知的障害者や精神障害者等の経過の中で、精神的な状況又は意欲低下等の理由から食事摂取の介助を受けている場合はその状況に基づき判断する。この場合は、「食事を促しても反応がなく、口に運ぶと口を開け食べる。」等、その詳細を「特記事項」に記載する。

☆選択肢の判断基準

「1. できる」

- (ア) 介助、見守り等なしに自分で食事が摂れている場合をいう。
- (イ) 箸やスプーンのほかに、自助具等を使用すれば自分で食事が摂れている場合も含まれる。
- (ウ) 視覚障害者で、配膳の際におかずの種類や配列を知らせると自分で摂取できる場合も含まれる。
- (エ) 経管栄養(胃ろうを含む)や中心静脈栄養(IVH)を行っているが、準備を含めて一連の行為を全て自分でやっている場合も含まれる。

「2. 見守り等」

- (ア) 介助なしに自分で摂取しているが、見守り等が行われている場合をいう。
- (イ) 他人の食事を食べないようにするため見守り等をしている場合も含まれる。
- (ウ) 食事を摂るように促すなど、声かけ・見守り等をしている場合も含まれる。
- (エ) 視覚障害者で、配膳の際のおかずの種類や配列を知らせても、器の高低により、ひっくり返す等がよくあり、見守り等が行われている場合も含まれる。

「3. 一部介助」

- (ア) 食事の際に、食卓上で小さく切る、ほぐす、皮をむく、魚の骨をとる等、食べやすくするために何らかの介助が行われている場合をいう。
- (イ) 特定の食品を極端に摂取する等により、何らかの介助を必要とする場合も含まれる。
- (ウ) 視覚障害者で、配膳の際のおかずの種類や配列を知らせても理解しにくく、特定の食品を摂取するため、何らかの介助を必要とする場合も含まれる。

「4. 全介助」

- (ア) 能力があるかどうかにかかわらず、現在自分では全く摂取していない場合をいう。
- (イ) 介助なしに自分で摂取できるが、早食い等で自分で摂取させると健康上の問題があるなどの判断で、全て介助している場合も含まれる。
- (ウ) 経管栄養(胃ろうを含む)や中心静脈栄養(IVH)で全て介助を受けている場合も含まれる。

警告コード

- 「食事摂取」が「1. できる」にもかかわらず、「えん下」が「3. できない」

【 強度行動障害を持つ重度精神遅滞児・者についての医療度判定基準 (案) 】

- I、何らかの手段で移動する能力をもつ重度精神遅滞児・者であり、
かつ強度行動障害スコアが10点以上
(各項目については特記事項がない限り6ヶ月以上継続する状態の場合カウントする)
- II、医療・介護判定スコア
- 1、行動障害に対する専門医療・療育の実施
 - ① 向精神薬による治療 (5)
 - ② 行動療法、動作法、TEACCH など (5)
 - ③ 精神科医師を含めたチームによる医療 (5)
 - 2、神経・精神疾患の合併・治療必要性
 - ① 著しい視聴覚障害 (全盲などがあり、かつ何らかの手段で移動する能力をもつ) (5)
 - ② 抗てんかん薬の内服をしても週1回以上のてんかん発作あり (5)
 - ③ 6ヶ月以内にてんかん重積発作あり (5)
 - ④ 自閉症等によりこだわりが著しく対応困難 (5)
 - ⑤ その他の精神疾患の合併により治療が必要 (5)
 - ⑥ 不眠のため向精神薬による治療が必要 (5)
 - 3、身体疾患の合併・治療必要性
 - ① 自傷・他害による外傷のため抗生剤等の治療など (6ヶ月以内にあれば) (3)
 - ② 多動やてんかん発作に基づく転倒・外傷の治療 (縫合を含む) (3)
 - ③ 慢性擦過傷・皮疹などによる外用剤・軟膏処置 (6ヶ月以内に1ヶ月以上継続) (3)
 - ④ ア) 骨折の既往 (原因に行動障害を伴うもの) (6ヶ月以内にあれば) (3)
またはイ) 骨折による手術の既往 (原因に行動障害を伴うもの、6ヶ月以内にあれば) (5)
 - ⑤ 便秘のため週2回以上の洗腸、または座薬 (下剤は定期内服していること) (3)
 - ⑥ イレウスの既往 (1年以内にあれば) (5)
 - ⑦ 異食のための検査・治療 (6ヶ月以内にあれば) (5)
 - ⑧ 呼吸器感染のための検査・処置・治療 (6ヶ月以内にあれば) (3)
 - ⑨ う歯・歯肉炎などの口腔疾患のため専門科治療 (6ヶ月以内にあれば) (3)
 - ⑩ その他の身体疾患での検査・治療
(定期薬内服による副作用チェックのための検査以外、6ヶ月以内にあれば) (3)
 - 4、行動障害のための保護・重点観察の必要性 (いずれか一つ)

行動障害のため常に一对一の対応が必要 (3)

行動障害のため個室対応等が必要 (一对一の対応でも開放処遇困難) (5)

行動障害のため個室対応でも処遇困難 (自傷、多動による転倒・外傷の危険) (10)
 - 5、生活場面での生命の危険回避の必要性

常時一对一で付き添い (介助または医療的観察・声かけ) が必要 (5点)

時に一对一で付き添い (介助または医療的観察・声かけ) が必要 (3点)

*以下の生活場面での生命の危険回避のため個室対応等を行っている場合は5点とみなす

 - ① 食事 (異食、他害につながるような盗食、詰め込みによる窒息の危険など) (3, 5)
 - ② 排泄 (排泄訓練が必要、糞食やトイレの水飲み、多動による転倒・外傷の危険) (3, 5)
 - ③ 移動 (多動のためどこへ行くか分からない、多動による転倒・外傷の危険) (3, 5)
 - ④ 入浴 (多動による転倒・外傷・溺水の危険、多飲による水中毒の危険) (3, 5)
 - ⑤ 更衣 (破衣・脱衣のための窒息の危険、異食の危険) (3, 5)
- 以上の合計点数で判定する () 点以上/116点中 強度行動障害のため医療度が高い

重症心身障害児(者)の適応行動評価

分担研究者 横地 健治：聖隷おおぞら療育センター

【研究要旨】

重症心身障害を対象とした適応行動評価法が開発されねばならない。そのため、横地分類の1A, 1B, 2A, 2B（大島分類1相当）の施設入所者468名を対象とし、試作適応行動評価法の評価を試みた。対人関係、受容、表出、興味・楽しみ、日常生活の5領域の52項目を評価した。2点満点の評価法で、全対象の平均は0.59で、標準偏差は0.44であった。Cronbach α 係数は0.98で、内的整合性は十分と判断された。本試案により、重症心身障害児(者)の適応行動の一定の評価は可能と思われた。

A. はじめに

重症心身障害は重度運動障害と重度知的障害の合併で定義される存在であり、日常生活・教育・医療上有効な働きかけをするためには、その多彩な障害像の深い理解が不可欠である。運動障害の理解は比較的容易であるが、知的障害の理解には現在でもなお課題が多い。近年、知的障害者を、知能障害と適応行動のふたつの面から評価するのが一般的となっている¹⁾²⁾。こうした考え方を重症心身障害児(者)に適用するのは価値あるものと考えられる。重症心身障害児(者)の知能障害を、その運動障害と言語障害のため、既成の方法で評価することは困難である。さらに、知能障害が重度となると、日常生活場面での評価に頼らざるを得ない制約もある。このため、適

応行動の評価は、生活支援計画策定の根拠という本来の意義だけでなく、知能評価の代用としての意義を持つと思われる。

Vineland adaptive behavior scale（ヴィネランド適応行動尺度）³⁾とAAMR Adaptive behavior scale（AAMR適応行動尺度）⁴⁾が、現在アメリカでの使われている代表的な評価法であるが、いずれも重症心身障害に適用できる評価項目はほとんどない。よって、著者は重症心身障害に適した適応行動評価法をかつて試作した⁵⁾。その後の経験により、項目数を増やし改良版を作成したので、この度は、多施設の多数の重症心身障害(者)を対象とし、その評価の妥当性を検討した。

B. 対象

札幌あゆみの園、島田療育センター、長岡療育園、聖隷おおぞら療育センター、びわこ学園医療福祉センター草津、麦の穂学園、芦北学園発達医療センターの入所者のうち、横地分類（図1）の1A, 1B, 2A, 2B（大島分類1相当）に該当する障害程度の入所者を対象とした。なお、今回は、盲・難聴までの障害を含んだ評価の妥当性を検証する目的はないので、これらの入所者は対象から除いた。また、眼瞼固定で睡眠・覚醒リズムも認められない入所者（たいていは、人工呼吸器使用）も、今回の評価対象としては重度過ぎるとして対象から除いた。

対象は468（男性267、女性201）名であった。年齢分布は、1～9歳未満は26名、10～19歳は66名、20～29歳は113名、30～39歳は103名、40～49歳は85名、50～59歳は63名、60～88歳は12名であった。年齢の平均±標準偏差は、32.8±15.0歳であった。横地分類による障害分布は、1Aが323名、1Bが60名、2Aが61名、2Bが24名であった。要医療度については、超重症児（者）、準超重症児（者）に該当するものが、それぞれ126名、83名であった。残る259名はいずれにも該当しなかった。障害発症時期については、297名は出生前か周生期（生後4週以内）であった。残る171名は出生後の脳障害であった。その発症時期は、6歳未満が153名、6歳以後が18名（うち1名は18歳以降）であった。障害の原因となった疾患については、37名が進行性疾患であった。

C. 方法

表1に示す52の評価項目を作成した。各対

象者に対し、1年以上の介護経験を持つ職員3名で別々に評価した。0から2点の3段階評価とした。「みられない」は0点、「時々あるいは不十分にみられる」は1点、「常にあるいは十分みられる」は2点とした。経験がないので判定できない場合は、判定不能（x）とした。

評価者間の一致率については、3名とも同一な場合を「完全一致」とした。3名のうち2名は同一で、残る1名が1点差の場合は「ほぼ一致」とし、残る1名が2点差の場合は「部分一致」とした。3名とも異なる場合は「不一致」とした。一人でも判定不能があったら不一致率も判定不能とした。

D. 結果

1. 各項目の平均得点

3名の評価者の平均点を、その項目についての対象者の得点とした。判定不能とした評価者がいた場合には、残る評価者の評価点の合計を、判定した評価者の数で除して対象者の得点とした。3名とも判定不能としたことはなかったので、すべての対象者のすべての項目に得点を得た。各項目につき、全対象者の得点の平均と標準偏差を表2に示した。また、その平均得点が高い項目順を表3に示した。

各項目の平均得点の施設間の差異を表4に示した。均一な対象で検討するため、323名の横地分類1A該当者を対象とした。各項目について、「各施設の平均得点」から「全体の平均得点」を減じ、それを「全体の標準偏差」で除し「偏位程度」とした。全項目の「偏位程度」の平均を施設ごとに計算すると、-0.30から+0.31であった。大きな差異

とはみなされなかった。

本評価法の内的整合性をみるため、Cronbach α 係数を求めた。同係数は0.98で、内的整合性の目安を0.7~0.8とすると、信頼性は十分と判断された。

2. 各対象の平均項目得点

対象ごとに各項目の得点を合計し、項目数(52)で除したものを「平均項目得点」とした。全対象の平均は0.59で、標準偏差は0.44であった。各対象の平均項目得点を図2に示した。0.1から0.5あたりの平均項目得点をとる対象が多くみられた。

3. 評価の一致率

3名の評価者の一致率を項目別に表5に示した。「完全一致」となった率を全項目で平均すると52.8%とあまり高くないが、「完全一致」と「ほぼ一致」の合計は78.5%となり、両者を含めれば、一定の信頼度のある一致率と考えられた。

E. 考察

重症心身障害児(者)は家庭内や施設内で、母親や介護職員と過ごす生活が中心である。その生活場面で、具体的支援計画作成上考慮される事項は、対人関係、受容、表出、興味・楽しみ、日常生活の5領域におおむね集約されたと考えた。その領域で、基本的であることと評価しやすさを基準にして、52項目を作成した。高い内的整合性(0.98のCronbach α 係数)を持つので、十分な有用性を持つ項目構成と思われた。ただし、今回の評価で、2点満点の項目得点のうち、平均項目得点が0.1から0.5あたりの低得点者が多

かった点は、なお不満の残る結果であった。もっと基本的な事項に対するきめ細かいスケールが要と考えられた。

個々の重症心身障害児(者)にとっての適応行動上の難易度の序列を知ることは重要である。特に、コミュニケーション能力を階層化して理解する意義は大きいと思われる。例えば、受容しやすいものは何か、しにくいものは何かといった点である。平均得点が高い順に、その項目を表3に示したが、これは重症心身障害一般の難易度の序列を示しているといえる。ただし、安易な一般化は危険である。脳障害の質の違いにより、難易度の序列が異なる可能性は十分あるからである。また、この序列は、健常乳幼児の発達段階に必ずしも一致しないことは注意しなければならない。例えば、健常乳児が母に示すような明確な親愛の情を大半の重症心身障害児(者)が示すとは限らないということである。

適応行動評価は、生活支援計画策定のための個別的評価であり、これに適うよう網羅的であり、かつ基本を押さえた重複のないものでなければならぬと思われる。こうした視点でさらに評価の精度を上げていかなければならないと考える。

文献

- 1) アメリカ精神遅滞学会(AAMR)編、茂木俊彦、監訳。精神遅滞、定義・分類・サポートシステム。9版。東京：学苑社、1999：57-85。
- 2) American Association on Mental Retardation. Mental retardation: definition, classification, and systems of supports. 10th ed. Washington: American

Association on Mental Retardation,
2002 : 5-17.

4) Beirne-Smith M, Patton JR, Kim SH.
Mental retardation. An introduction to
intellectual disabilities. 7th ed. Upper
Saddle River : Prentice-Hall, 2006.

3) Sparrow SS, Cicchetti DV, Balla DA.
Vineland adaptive behavior scales. 2nd

edi. Circle Pines : American Guidance
Service, 2005.

4) Nihira K, Leland H, Lambert N.
AAMR Adaptive behavior scale-residen-
tial and community version. 2nd ed.
Austin : Pro-Ed, 1993.

5) 横地健治. 重症心身障害児(者)の適応
行動評価. 脳と発達 2004 ; 36 : 26-30.

表 1. 重症心身障害児(者)の適応行動評価

1. 対人関係

<人の認識>

- 1 () 人に対し関心がある。*注視・追視がある、動作が停止するといった反応から判断する。
- 2 () 特定な人に対して、他の人とは区別した特別な反応を示す。*注視時の表情が違う、注視時間が長いなどから判断する。自分にとって特別な意味を持つ人(母親、施設職員など)がいるという意識がある場合を指す。
- 3 () 見知らぬ人に対して、いつも身近にいる人とは違う反応(警戒あるいは関心)を示す。*訪問者が自分の周りに来て不安になる。これは、不審者であるという認識がなければならぬ。

<感情の表現・理解>

- 4 () 不快や嫌悪の感情が、表情や姿勢の変化から示される。*身体的な原因による苦痛や、覚醒水準の変化による(寝ぐずりなど)と解せられる場合は除く。ただし、何に対する感情かは確定されなくてもいい。
- 5 () 快の感情が、表情や姿勢の変化から示される。*何に対する感情かはわからなくてもいい。
- 6 () 特定な事態や事物に対し、不快や嫌悪の感情が、表情や姿勢の変化から示される。*この感情をもたらすきっかけははっきりしていなければならないが、どうしてかは確定されなくてもいい。
- 7 () 特定な事態や事物に対し、快の感情が、表情や姿勢の変化から示される。*この感情をもたらすきっかけははっきりしていなければならないが、どうしてかは確定されなくてもいい。
- 8 () 特定な事態や事物に対し、恐怖の感情が、表情や姿勢の変化から示される。*単なる不快以上の拒否の意志があると判断されねばならないが、どうしてかは確定されなくてもいい。
- 9 () 親愛の情を示す他者の行為(微笑みと声掛け、撫でるなど)に対し、笑顔で反応する。*単なる快以上の好意的感情が、特定の人(母親、施設職員など)の特定の行為に示される場合を指す。
- 10 () 自分の特定の行為に対し、他者から向けられた怒り・叱責の感情を理解する。*自分の行為がきっかけに起こった他者からの否定的な反応に不安・狼狽の表情を示す。
- 11 () 自分の特定の行為に対し、他者から向けられた賞賛・厚意の感情を理解する。*自分の行為がきっかけに起こった他者からの肯定的な反応に対し、快・満足の表情を示す。
- 12 () 自分が直接関係しない状況で、複数の他者が親密な関係にあるか、険悪な関係にあるかは区別できる。*他人が喧嘩していると不安な表情となり、他人が仲良くしていると微笑むといったことが確かに見られる。
- 13 () 自分が直接関係しない状況での他者の喜びと悲しみに対し、喜びと悲しみの共感の感情が表される。*テレビ・ビデオ・演劇の登場人物にとって、嬉しいことと悲しいことが確かに区別されるようなことを指す。

Ⅱ. 受容 (コミュニケーション)

<聴覚・言語>

- 1 () 音や声に注意を向ける。*音源の方向に顔か目を向ける、動作が止まるなどの反応から判断する。単なる驚愕ではいけない。
- 2 () 母親やある特定な人の声は聞き分けて、その声に注意を向ける。*視野外で、その存在を認識していなければならない。
- 3 () 自分に対する呼びかけに反応する。*声に対する単純な反応ではなく、自分に向けられたものであることは認識していなければならない。その場の自分以外の人に対する声掛けとは区別されていなければならない。必ずしも、名前と呼ばれなくても、特定の人特定の声掛けでこの反応が得られればよい。
- 4 () 「だめ」(禁止)の指示が、指示者の叱責が加味されて理解される。*指示者の強い声の調子、ジェスチャー、とがめる表情が一体となっている。
- 5 () 「だめ」(禁止)と「いい」(許諾)が、主として言語指示で区別される。*自然に伴う声の調子、ジェスチャー、表情が、指示に加味されていてもいい。
- 6 () 不特定な人から、名前(決まった愛称でもいい)で呼ばれて反応する。*自分の名前の理解を理解している。
- 7 () 「ご飯」「さよなら」「おやすみ」などの簡単な日常生活語がひとつはわかる(ただし、5語以内)。
- 8 () 簡単な日常生活語が、いくつか(6語以上)はわかる。

<ジェスチャー>

- 9 () 指差しに反応して、その方を見る。*指先の延長上の空間認識がある。
- 10 () バイバイ、おいで、ちょうだいのような身振りの意味を理解する(少なくともひとつはある)。

Ⅲ. 表出 (コミュニケーション)

<表情・ジェスチャー>

- 1 () 外界に注意を向けていることがわかる。*それまでの動作が停止する程度でいい。
- 2 () 特定の物や人を注視したり、目で追ってゆくことにより、関心があることを示す。*視線の表出がある。
- 3 () 他者に自分の関心事を訴え、要求(具体性は乏しいが)を伝える。*あれを取ってくれとか、これをしてくれとか、要求しているように思える目つき・発声・しぐさをする。
- 4 () 問いに対し、イエスかノー(同意か反対)を意味する身振り(頸の動きを含めて)をする。*問いが理解されている状況で、イエス・ノーの意味が明確に表されている。
- 5 () 見える物に対し二者択一を求められた時、目つきや動作で、選択を伝える。*二者択一の意味は理解されていなければならない。
- 6 () 「バイバイ」「ちょうだい」のような意味をもった身振りを(少なくともひとつはある)。*イエス・ノー以外の意味のある身振りを。運動障害のため、健常者とは違う身振りになっていてもいい。

<発声・言語>

- 7 () 快・不快の感情に対応して、多様な発声がある。*何が快・不快の感情をもたらしているか、はっきりしていなくもいい。
- 8 () 注意を引くための発声を行う。*注意を引く相手は明確にされていなければならない。同時に体動・身振りを伴っていてもいい。
- 9 () 母親や介護者なら理解できる言葉をひとつは言う(ただし、5語以内)。*単音でも意味を持っていれればいい。
- 10 () 簡単な日常生活語を、いくつか(6語以上)言う。

Ⅳ. 興味・楽しみ

- 1 () 抱かれたり、特定の揺らされ方を好む反応が見られる。*年長者では、エアートランポリン・ブランコなどを指す。
- 2 () 特定の物の感触(触覚・風など)を好む反応がみられる。
- 3 () 特定の音・テンポ・メロディを好む反応が見られる。
- 4 () 特定の物を、さわったり動かすなど操作して楽しめる。*音を出して喜ぶなどの意識性がある場合を指す。

- 5 () 見て好きなキャラクターがある。*ビデオや印刷物などの幼児用のキャラクターだけでなく、芸能人でもいい。
- 6 () テレビ番組・ビデオなどで、視聴して楽しめる物がある。
- 7 () 複数の人でやりとりする遊び(ゲーム)に関心がある。*直接参加できなくてもいいが、一定のルールの理解は必要。

V. 日常生活

<食事>

- 1 () 食べたいという意志表現をする。*食物や食器への視線の表出があればいい。
- 2 () 食べ物がのったスプーンが口の前に出されたら、協調して口を開き取り込む。

<排泄・衣服着脱>

- 3 () 尿・便が出たら、様子が変わる。
- 4 () 尿意・便意を表出し、覚醒時はオムツがいらぬ。
- 5 () 衣服の着脱に協力する。*運動障害のため効果的でなくてもいい。

<移動・外出>

- 6 () 家や施設内での居場所の違いがわかる。
- 7 () 外出時いつもと違う場所にいることがわかる。
- 8 () 自分の外出の準備を理解し、外出を予想する反応がある。
- 9 () 車で外出時、行く先を予想している反応(期待あるいは嫌悪)がある。

<危険予測> *通常経験されないことなので、かつて偶然起きてしまった事例から判断する。

- 10 () 主な介護者(母親、施設職員など)が離れる時、不安の反応が明らかに見られる。
- 11 () 危険な物・人(避けられない大きさ・速さがある)が近づいてくると、不安・恐怖が表される。
- 12 () 高い所や不安定な所に置かれて、転落・転倒の不安・恐怖が表される。

表2. 項目別平均得点

				平均得点	標準偏差					平均得点	標準偏差	
I. 対人関係												
人の認識		1	1.23	0.69					4	0.29	0.54	
		2	0.86	0.74					5	0.29	0.52	
		3	0.54	0.65					6	0.16	0.41	
感情の表現・理解		4	1.45	0.55	発声・言語				7	1.01	0.77	
		5	1.40	0.62					8	0.50	0.66	
		6	1.14	0.65					9	0.15	0.44	
		7	1.10	0.69					10	0.07	0.33	
		8	0.51	0.57	IV. 興味・楽しみ							
		9	0.94	0.72					1	1.16	0.65	
		10	0.41	0.56					2	0.89	0.63	
		11	0.48	0.60					3	0.78	0.64	
		12	0.17	0.36					4	0.42	0.59	
		13	0.14	0.33					5	0.23	0.50	
II. 受容(コミュニケーション)												
聴覚・言語		1	1.36	0.60					6	0.39	0.61	
		2	0.78	0.72	V. 日常生活				7	0.15	0.33	
		3	0.95	0.70	食事				1	0.66	0.75	
		4	0.43	0.60					2	0.85	0.84	
		5	0.33	0.54	排泄・衣服着脱				3	0.46	0.53	
		6	0.75	0.68					4	0.05	0.25	
		7	0.46	0.67					5	0.14	0.35	
		8	0.31	0.58	移動・外出				6	0.75	0.69	
ジェスチャー		9	0.44	0.63					7	0.81	0.69	
		10	0.36	0.60					8	0.31	0.55	
III. 表出(コミュニケーション)												
表情・ジェスチャー		1	1.13	0.68	危険予測				10	0.27	0.48	
		2	0.94	0.76					11	0.28	0.47	
		3	0.49	0.65					12	0.21	0.41	

表3. 得点が高い項目順

項目	得点	
1) 対人関係－感情の表現・理解	不快や嫌悪の感情が、表情や姿勢の変化から示される。	1.45
2) 対人関係－感情の表現・理解	快の感情が、表情や姿勢の変化から示される。	1.40
3) 受容－聴覚・言語	音や声に注意を向ける。	1.36
4) 対人関係－人の認識	人に対し関心がある。	1.23
5) 興味・楽しみ	抱かれたり、特定の揺らされ方を好む反応が見られる。	1.16
6) 対人関係－感情の表現・理解	特定の事態や事物に対し、不快や嫌悪の感情が、表情や姿勢の変化から示される。	1.14
7) 表出－表情・ジェスチャー	外界に注意を向けていることがわかる。	1.13
8) 対人関係－感情の表現・理解	特定の事態や事物に対し、快の感情が、表情や姿勢の変化から示される。	1.10
9) 表出－発声・言語	快・不快の感情に対応して、多様な発声がある。	1.01
10) 受容－聴覚・言語	自分に対する呼びかけに反応する。	0.95
11) 表出－表情・ジェスチャー	特定の物や人を注視したり、目で追ってゆくことにより、関心があることを示す。	0.94
12) 対人関係－感情の表現・理解	親愛の情を示す他者の行為に対し、笑顔で反応する。	0.94
13) 興味・楽しみ	特定の物の感触（触覚・風など）を好む反応がみられる。	0.89
14) 対人関係－人の認識	特定な人に対して、他の人とは区別した特別な反応を示す。	0.86
15) 日常生活－食事	食べ物がのったスプーンが口の前に出されたら、協調して口を開き取り込む。	0.85
16) 日常生活－移動・外出	外出時いつもと違う場所にいることがわかる。	0.81
17) 興味・楽しみ	特定の音・テンポ・メロディを好む反応が見られる。	0.78
18) 受容－聴覚・言語	母親やある特定な人の声は聞き分けて、その声に注意を向ける。	0.78
19) 受容－聴覚・言語	不特定な人から、名前前で呼ばれて反応する。	0.75
20) 日常生活－移動・外出	家や施設内での居場所の違いがわかる。	0.75
21) 日常生活－食事	食べたいという意志表現をする。	0.66
22) 対人関係－人の認識	見知らぬ人に対して、いつも身近にいる人とは違う反応（警戒あるいは関心）を示す。	0.54
23) 対人関係－感情の表現・理解	特定の事態や事物に対し、恐怖の感情が、表情や姿勢の変化から示される。	0.51
24) 表出－発声・言語	注意を引くための発声を行う。	0.50
25) 表出－表情・ジェスチャー	他者に自分の関心事を訴え、要求を伝える。	0.49
26) 対人関係－感情の表現・理解	自分の特定の行為に対し、他者から向けられた賞賛・厚意の感情を理解する。	0.48
27) 日常生活－排泄・衣服着脱	尿・便が出たら、様子が変わる。	0.46
28) 受容－聴覚・言語	「ご飯」「さよなら」「おやすみ」などの簡単な日常生活語がひとつはわかる。	0.46
29) 受容－ジェスチャー	指差しに反応して、その方を見る。	0.44
30) 受容－聴覚・言語	バイバイ、おいで、ちょうだいのような身振りの意味を理解する。	0.43
31) 興味・楽しみ	特定の物を、さわったり動かすなど操作して楽しめる。	0.42
32) 対人関係－感情の表現・理解	自分の特定の行為に対し、他者から向けられた怒り・叱責の感情を理解する。	0.41
33) 興味・楽しみ	テレビ番組・ビデオなどで、視聴して楽しめる物がある。	0.39
34) 受容－ジェスチャー	バイバイ、おいで、ちょうだいのような身振りの意味を理解する。	0.36
35) 受容－聴覚・言語	「だめ」（禁止）と「いい」（許諾）が、主として言語指示で区別される。	0.33
36) 受容－聴覚・言語	簡単な日常生活語が、いくつか（6語以上）はわかる。	0.31
37) 日常生活－移動・外出	自分の外出の準備を理解し、外出を予想する反応がある。	0.31
38) 表出－表情・ジェスチャー	問いに対し、イエスカノーを意味する身振りを示す。	0.29
39) 表出－表情・ジェスチャー	見える物に対し二者択一を求められた時、目つきや動作で、選択を伝える。	0.29
40) 日常生活－危険予測	危険な物・人が近づいてくると、不安・恐怖が表される。	0.28
41) 日常生活－移動・外出	車で外出時、行く先を予想している反応（期待あるいは嫌悪）がある。	0.28
42) 日常生活－危険予測	主な介護者が離れる時、不安の反応が明らかに見られる。	0.27
43) 興味・楽しみ	見て好きなキャラクターがある。	0.23
44) 日常生活－危険予測	高い所や不安定な所に置かれて、転落・転倒の不安・恐怖が表される。	0.21
45) 対人関係－感情の表現・理解	自分が直接関係しない状況で、複数の他者が親密な関係にあるか、険悪な関係にあるかは区別できる。	0.17
46) 表出－表情・ジェスチャー	「バイバイ」「ちょうだい」のような意味をもった身振りを示す。	0.16
47) 表出－発声・言語	母親や介護者なら理解できる言葉をひとつは言う（ただし、5語以内）。	0.15
48) 興味・楽しみ	複数の人でやりとりする遊び（ゲーム）に関心がある。	0.15
49) 対人関係－感情の表現・理解	自分が直接関係しない状況での他者の喜びと悲しみに対し、喜びと悲しみの共感の感情が表される。	0.14
50) 日常生活－排泄・衣服着脱	衣服の着脱に協力する。	0.14
51) 表出－発声・言語	簡単な日常生活語を、いくつか（6語以上）言う。	0.07
52) 日常生活－排泄・衣服着脱	尿意・便意を表出し、覚醒時はオムツがいらぬ。	0.05

表4. 横地分類1 A該当者に対する平均得点の施設間格差

			全体 (323名)		施設A (37名)		施設B (82名)		施設C (39名)	
			平均得点	標準偏差	平均値	偏位程度	平均得点	偏位程度	平均得点	偏位程度
I. 対人関係	人の認識	1	1.09	0.68	0.98	-0.16	1.28	0.29	1.25	0.24
		2	0.68	0.69	0.77	0.13	0.88	0.30	0.91	0.35
		3	0.39	0.56	0.48	0.17	0.48	0.17	0.57	0.33
	感情の表現・理解	4	1.37	0.59	1.31	-0.09	1.63	0.45	1.53	0.27
		5	1.30	0.65	1.23	-0.11	1.57	0.40	1.41	0.17
		6	1.03	0.65	0.93	-0.16	1.37	0.53	1.10	0.11
		7	0.97	0.69	0.89	-0.12	1.29	0.46	1.01	0.05
		8	0.37	0.48	0.33	-0.08	0.48	0.23	0.46	0.20
		9	0.77	0.68	0.58	-0.28	1.12	0.51	0.84	0.10
		10	0.25	0.42	0.25	-0.02	0.33	0.17	0.47	0.51
		11	0.32	0.48	0.28	-0.08	0.49	0.34	0.47	0.30
		12	0.09	0.23	0.04	-0.22	0.12	0.16	0.18	0.40
		13	0.07	0.20	0.04	-0.15	0.06	-0.02	0.14	0.36
II. 受容	聴覚・言語	1	1.24	0.60	1.20	-0.06	1.49	0.41	1.37	0.21
		2	0.61	0.65	0.83	0.34	0.84	0.36	0.80	0.30
		3	0.78	0.64	0.75	-0.04	1.05	0.42	1.00	0.35
		4	0.24	0.43	0.26	0.05	0.29	0.13	0.48	0.56
		5	0.17	0.35	0.17	0.02	0.24	0.20	0.36	0.54
		6	0.56	0.59	0.51	-0.09	0.84	0.47	0.79	0.40
		7	0.25	0.47	0.23	-0.04	0.39	0.29	0.48	0.48
		8	0.15	0.37	0.12	-0.09	0.19	0.11	0.35	0.54
	9	0.25	0.46	0.26	0.03	0.36	0.25	0.47	0.49	
	10	0.17	0.40	0.18	0.02	0.20	0.08	0.42	0.62	
III. 表出	表情・ジェスチャー	1	0.99	0.68	0.90	-0.14	1.28	0.42	1.06	0.10
		2	0.77	0.71	0.77	0.00	1.00	0.33	0.98	0.30
		3	0.31	0.52	0.14	-0.34	0.49	0.36	0.50	0.36
		4	0.13	0.33	0.10	-0.10	0.21	0.23	0.24	0.32
		5	0.13	0.32	0.07	-0.16	0.19	0.20	0.24	0.36
		6	0.05	0.20	0.01	-0.21	0.07	0.07	0.08	0.11
	発声・言語	7	0.88	0.76	0.51	-0.48	1.19	0.41	1.07	0.25
		8	0.33	0.55	0.24	-0.16	0.48	0.27	0.55	0.40
		9	0.04	0.23	0.01	-0.14	0.04	0.00	0.15	0.44
		10	0.01	0.14	0.00	-0.10	0.00	-0.10	0.07	0.38
IV. 興味・楽しみ	1	1.11	0.66	0.77	-0.51	1.58	0.71	1.12	0.02	
	2	0.80	0.62	0.83	0.05	1.27	0.77	0.73	-0.11	
	3	0.66	0.60	0.78	0.21	0.90	0.40	0.58	-0.12	
	4	0.28	0.49	0.18	-0.21	0.40	0.25	0.34	0.12	
	5	0.14	0.38	0.11	-0.07	0.21	0.18	0.24	0.27	
	6	0.26	0.51	0.23	-0.06	0.37	0.20	0.42	0.30	
	7	0.08	0.25	0.08	-0.02	0.09	0.01	0.14	0.21	
V. 日常生活	食事	1	0.46	0.65	0.25	-0.33	0.60	0.22	0.68	0.34
		2	0.64	0.79	0.44	-0.25	0.68	0.05	0.88	0.30
	排泄・衣服着脱	3	0.45	0.51	0.15	-0.58	0.61	0.32	0.38	-0.12
		4	0.01	0.14	0.00	-0.11	0.04	0.22	0.00	-0.11
		5	0.06	0.20	0.02	-0.18	0.14	0.39	0.09	0.17
	移動・外出	6	0.58	0.61	0.64	0.09	0.59	0.02	0.89	0.51
		7	0.64	0.61	0.81	0.27	0.81	0.27	0.94	0.48
		8	0.15	0.37	0.07	-0.21	0.23	0.21	0.29	0.39
	危険予測	9	0.16	0.34	0.05	-0.32	0.26	0.29	0.35	0.56
		10	0.14	0.30	0.19	0.15	0.19	0.15	0.24	0.33
		11	0.17	0.33	0.07	-0.28	0.20	0.10	0.45	0.87
		12	0.12	0.27	0.06	-0.20	0.14	0.07	0.30	0.66
					平均値	-0.10		0.26		0.31
					最小値	-0.58		-0.10		-0.12
					最大値	0.34		0.77		0.87

* 偏位程度 = {(各施設の平均得点) - (全体の平均得点)} / (全体の標準偏差)

施設D (37名)		施設E (44名)		施設F (36名)		施設G (48名)	
平均得点	偏位程度	平均得点	偏位程度	平均得点	偏位程度	平均得点	偏位程度
0.93	-0.23	1.20	0.17	0.98	0.29	0.78	-0.45
0.41	-0.39	0.58	-0.14	0.62	0.30	0.42	-0.37
0.21	-0.32	0.33	-0.10	0.38	0.17	0.22	-0.30
1.51	0.25	1.14	-0.38	1.27	0.45	0.99	-0.65
1.47	0.26	1.16	-0.22	1.21	0.40	0.88	-0.66
1.04	0.01	0.79	-0.36	0.87	0.53	0.77	-0.40
1.04	0.09	0.82	-0.23	0.91	0.46	0.59	-0.55
0.16	-0.42	0.26	-0.22	0.30	0.23	0.42	0.11
0.50	-0.39	0.50	-0.39	0.82	0.51	0.64	-0.19
0.06	-0.45	0.20	-0.12	0.24	0.17	0.16	-0.22
0.10	-0.46	0.36	0.08	0.23	0.34	0.15	-0.35
0.00	-0.39	0.02	-0.29	0.17	0.16	0.05	-0.16
0.00	-0.34	0.04	-0.14	0.14	-0.02	0.05	-0.09
1.31	0.11	1.26	0.03	0.96	0.41	0.88	-0.60
0.15	-0.70	0.45	-0.24	0.54	0.36	0.46	-0.22
0.33	-0.70	0.62	-0.25	0.75	0.42	0.66	-0.18
0.05	-0.43	0.20	-0.10	0.22	0.13	0.13	-0.25
0.00	-0.47	0.08	-0.26	0.17	0.20	0.10	-0.20
0.12	-0.75	0.30	-0.44	0.57	0.47	0.50	-0.11
0.11	-0.30	0.05	-0.42	0.24	0.29	0.15	-0.22
0.04	-0.31	0.01	-0.39	0.19	0.11	0.13	-0.05
0.07	-0.38	0.08	-0.35	0.23	0.25	0.15	-0.20
0.10	-0.18	0.04	-0.34	0.18	0.08	0.09	-0.21
1.14	0.22	1.28	0.41	0.74	0.42	0.32	-1.00
0.64	-0.18	0.74	-0.04	0.58	0.33	0.46	-0.44
0.12	-0.37	0.29	-0.04	0.26	0.36	0.15	-0.32
0.06	-0.21	0.05	-0.26	0.17	0.23	0.05	-0.25
0.05	-0.23	0.05	-0.25	0.14	0.20	0.08	-0.16
0.03	-0.14	0.00	-0.27	0.10	0.07	0.07	0.08
0.74	-0.18	0.86	-0.02	0.90	0.41	0.50	-0.50
0.04	-0.54	0.25	-0.14	0.42	0.27	0.19	-0.26
0.00	-0.20	0.01	-0.16	0.09	0.00	0.01	-0.14
0.00	-0.10	0.00	-0.10	0.05	-0.10	0.00	-0.10
0.95	-0.24	1.07	-0.06	1.24	0.71	0.54	-0.85
0.33	-0.76	0.85	0.09	0.69	0.77	0.42	-0.62
0.51	-0.24	0.57	-0.14	0.74	0.40	0.36	-0.49
0.16	-0.25	0.33	0.09	0.19	0.25	0.20	-0.17
0.05	-0.24	0.04	-0.25	0.20	0.18	0.06	-0.21
0.15	-0.22	0.14	-0.25	0.31	0.20	0.15	-0.22
0.00	-0.34	0.01	-0.31	0.24	0.01	0.06	-0.11
0.35	-0.16	0.59	0.20	0.33	0.22	0.22	-0.36
0.68	0.05	0.81	0.21	0.52	0.05	0.41	-0.30
0.51	0.13	0.39	-0.10	0.76	0.32	0.14	-0.59
0.01	-0.04	0.00	-0.11	0.02	0.22	0.00	-0.11
0.01	-0.26	0.01	-0.27	0.06	0.39	0.01	-0.23
0.54	-0.06	0.58	0.00	0.59	0.02	0.30	-0.46
0.40	-0.40	0.61	-0.06	0.60	0.27	0.29	-0.58
0.03	-0.34	0.05	-0.26	0.24	0.21	0.06	-0.24
0.05	-0.30	0.07	-0.25	0.14	0.29	0.07	-0.26
0.03	-0.38	0.05	-0.30	0.16	0.15	0.12	-0.08
0.06	-0.32	0.08	-0.28	0.18	0.10	0.09	-0.24
0.01	-0.39	0.05	-0.26	0.14	0.07	0.10	-0.06
	-0.26		-0.16		0.26		-0.30
	-0.76		-0.44		-0.10		-1.00
	0.26		0.41		0.77		0.11

表5. 評価者による一致率

		完全一致	(%)	ほぼ一致	(%)	部分一致	(%)	不一致	(%)	判定不能	(%)	完全一致+ほぼ一致	(%)	
I. 対人関係	人の認識	1	201	42.9%	177	37.8%	26	5.6%	30	6.4%	34	7.3%	378	80.8%
		2	201	42.9%	169	36.1%	36	7.7%	22	4.7%	40	8.5%	370	79.1%
	感情の表現・理解	3	215	45.9%	126	26.9%	44	9.4%	27	5.8%	56	12.0%	341	72.9%
		4	201	42.9%	196	41.9%	34	7.3%	28	6.0%	9	1.9%	397	84.8%
		5	209	44.7%	208	44.4%	18	3.8%	18	3.8%	15	3.2%	417	89.1%
		6	149	31.8%	208	44.4%	59	12.6%	37	7.9%	15	3.2%	357	76.3%
		7	172	36.8%	197	42.1%	41	8.8%	35	7.5%	23	4.9%	369	78.8%
		8	206	44.0%	110	23.5%	54	11.5%	42	9.0%	56	12.0%	316	67.5%
		9	199	42.5%	163	34.8%	51	10.9%	39	8.3%	16	3.4%	362	77.4%
		10	245	52.4%	134	28.6%	29	6.2%	24	5.1%	36	7.7%	379	81.0%
		11	240	51.3%	136	29.1%	35	7.5%	26	5.6%	31	6.6%	376	80.3%
		12	317	67.7%	83	17.7%	18	3.8%	6	1.3%	44	9.4%	400	85.5%
		13	328	70.1%	69	14.7%	14	3.0%	9	1.9%	48	10.3%	397	84.8%
II. 受容	聴覚・言語	1	184	39.3%	188	40.2%	34	7.3%	44	9.4%	18	3.8%	372	79.5%
		2	204	43.6%	166	35.5%	30	6.4%	34	7.3%	34	7.3%	370	79.1%
		3	171	36.5%	197	42.1%	43	9.2%	37	7.9%	20	4.3%	368	78.6%
		4	261	55.8%	124	26.5%	22	4.7%	22	4.7%	39	8.3%	385	82.3%
		5	286	61.1%	93	19.9%	26	5.6%	16	3.4%	47	10.0%	379	81.0%
		6	180	38.5%	162	34.6%	52	11.1%	41	8.8%	33	7.1%	342	73.1%
		7	268	57.3%	96	20.5%	31	6.6%	17	3.6%	56	12.0%	364	77.8%
		8	307	65.6%	54	11.5%	28	6.0%	17	3.6%	62	13.2%	361	77.1%
	9	252	53.8%	104	22.2%	35	7.5%	19	4.1%	58	12.4%	356	76.1%	
	10	289	61.8%	76	16.2%	24	5.1%	21	4.5%	58	12.4%	365	78.0%	
III. 表出	表情・ジェスチャー	1	163	34.8%	199	42.5%	34	7.3%	40	8.5%	32	6.8%	362	77.4%
		2	173	37.0%	183	39.1%	31	6.6%	24	5.1%	57	12.2%	356	76.1%
		3	263	56.2%	123	26.3%	26	5.6%	25	5.3%	31	6.6%	386	82.5%
		4	332	70.9%	79	16.9%	14	3.0%	20	4.3%	23	4.9%	411	87.8%
		5	305	65.2%	78	16.7%	23	4.9%	13	2.8%	49	10.5%	383	81.8%
		6	370	79.1%	51	10.9%	18	3.8%	6	1.3%	23	4.9%	421	90.0%
		7	188	40.2%	152	32.5%	40	8.5%	29	6.2%	59	12.6%	340	72.6%
IV. 興味・楽しみ	発声・言語	8	225	48.1%	91	19.4%	47	10.0%	27	5.8%	78	16.7%	316	67.5%
		9	370	79.1%	23	4.9%	16	3.4%	6	1.3%	53	11.3%	393	84.0%
		10	392	83.8%	11	2.4%	5	1.1%	2	0.4%	58	12.4%	403	86.1%
		1	152	32.5%	214	45.7%	35	7.5%	45	9.6%	22	4.7%	366	78.2%
		2	130	27.8%	200	42.7%	56	12.0%	50	10.7%	32	6.8%	330	70.5%
		3	143	30.6%	182	38.9%	68	14.5%	38	8.1%	37	7.9%	325	69.4%
		4	256	54.7%	101	21.6%	57	12.2%	20	4.3%	34	7.3%	357	76.3%
		5	320	68.4%	45	9.6%	28	6.0%	12	2.6%	63	13.5%	365	78.0%
		6	275	58.8%	86	18.4%	25	5.3%	27	5.8%	55	11.8%	361	77.1%
		7	323	69.0%	69	14.7%	18	3.8%	9	1.9%	49	10.5%	392	83.8%
V. 日常生活	食事	1	231	49.4%	96	20.5%	38	8.1%	20	4.3%	83	17.7%	327	69.9%
		2	224	47.9%	102	21.8%	22	4.7%	25	5.3%	95	20.3%	326	69.7%
	排泄・衣服着脱	3	184	39.3%	176	37.6%	20	4.3%	26	5.6%	62	13.2%	360	76.9%
		4	424	90.6%	11	2.4%	3	0.6%	1	0.2%	29	6.2%	435	92.9%
		5	365	78.0%	42	9.0%	24	5.1%	10	2.1%	27	5.8%	407	87.0%
	移動・外出	6	169	36.1%	148	31.6%	44	9.4%	30	6.4%	77	16.5%	317	67.7%
		7	161	34.4%	152	32.5%	43	9.2%	37	7.9%	75	16.0%	313	66.9%
		8	303	64.7%	80	17.1%	28	6.0%	15	3.2%	42	9.0%	383	81.8%
		9	284	60.7%	86	18.4%	23	4.9%	23	4.9%	52	11.1%	370	79.1%
		10	290	62.0%	96	20.5%	25	5.3%	19	4.1%	38	8.1%	386	82.5%
	危険予測	11	253	54.1%	92	19.7%	27	5.8%	18	3.8%	78	16.7%	345	73.7%
		12	285	60.9%	61	13.0%	23	4.9%	13	2.8%	86	18.4%	346	73.9%
		平均値		52.8%		25.7%		6.8%		5.1%		9.6%		78.5%
最小値			27.8%		2.4%		0.6%		0.2%		1.9%		66.9%	
最大値		90.6%		45.7%		14.5%		10.7%		20.3%		92.9%		

図1. 横地分類

						〈知能レベル〉
E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可
戸	室	室	座	寝	寝	
外	内	内	位	返	返	
歩	歩	移	保	り	り	
行	行	動	持	可	不	
可	可	可	可		可	
						〈移動機能レベル〉

〈移動機能レベルの1, 2, 3の判定基準〉

- 1: 寝返りもできない (寝返り不可)
- 2: 寝返りはできる (寝返り可) 以下の1)と2)を満たすことによって判定する
 - 1) どんなやり方でもいいので、意識性を持って、仰向けからうつ伏せになり、手が抜ける。バタバタ動いて、偶然成功したといった場合は、不可とする。
 - 2) 座位保持、ハイハイはできない。
- 3: 座位保持はできる (座位保持可) 以下の1)と2)を満たすことによって判定する
 - 1) 床上に座位をセットして、少なくとも30秒は、手を床から離しても倒れない。自力で、臥位から座位に移行できなくてもいい。
 - 2) ハイハイ、伝い歩きはできない。寝返りはしないのに、座位保持ができることが例外的にはあるが、その場合はこのレベルにする。

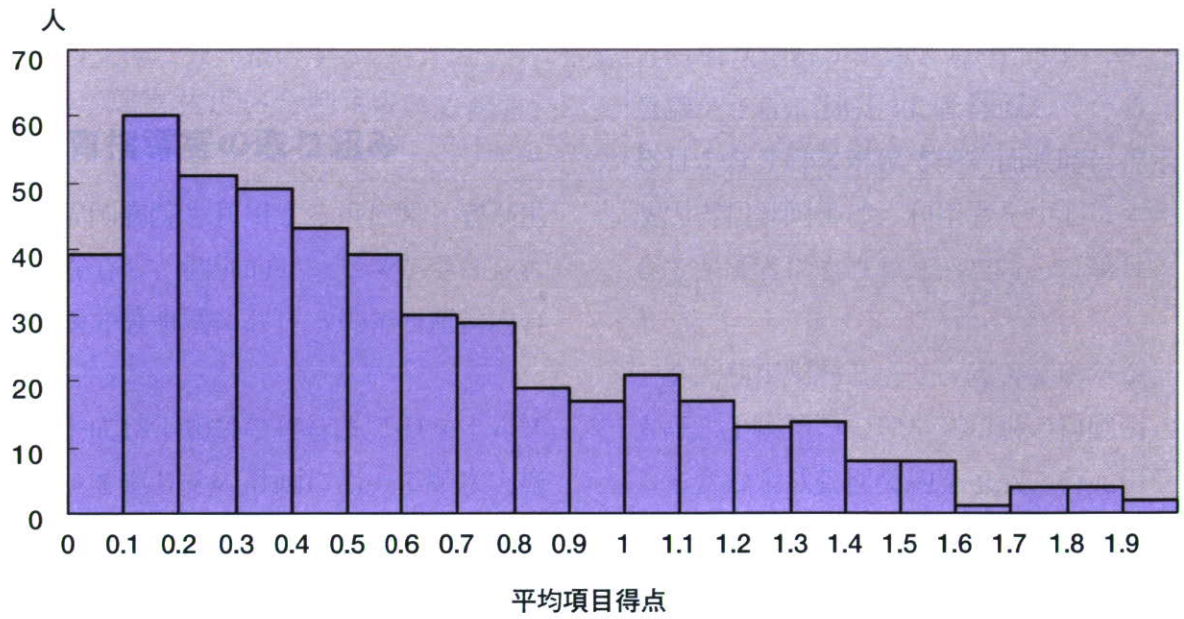
〈知能レベルA、B、Cの判定基準〉

- A: 日常生活に関する簡単な言語理解もできない
- B: 日常生活に関する簡単な言語理解はある (簡単な言語理解可)
以下の1)あるいは2)の基準で判定する
- 1) 「ごはん」「さよなら」「おやすみ」といった簡単な日常生活語を、2語以上は理解する。
 - 2) 発達年齢では、1歳以上とみなす (聴覚言語理解で判定できない場合)。
- * 対象が成人ならば、知能指数は6以上 (約10以上) に相当する。

$$\text{発達年齢} / \text{暦年齢} = 1 \text{歳} / 17 \text{歳} 9 \text{か月} = 0.06$$
 (全訂版田中ビネー知能検査 (1987年) に準拠して算出)
- C: 色や数が、少しはわかる (簡単な色・数の理解可)
以下の1)あるいは2)の基準で判定する
- 1) 赤・黄・青のうち、少なくとも2色はわかる。かつ、2以上の数がわかる (例えば、「・・を2個取って」で2個がわかる)。
 - 2) 発達年齢では、3歳半以上とみなす (上述の基準では判断できない場合、他の領域から判断した結果)。
- * 対象が成人ならば、知能指数は20以上に相当する (知能指数20は、最重度精神遅滞と重度精神遅滞の境界である)。

$$\text{発達年齢} / \text{暦年齢} = 3 \text{歳} 6 \text{か月} / 17 \text{歳} 9 \text{か月} = 0.20$$

図2 各対象の平均項目得点



重症心身障害児(者)ケアのタイムスタディ（2年目）

分担研究者 松葉佐 正：芦北学園発達医療センター
研究協力者 小西 徹：長岡療育園

本年度は、昨年度に続いて（1）超重症児のケアのタイムスタディと、（2）重症心身障害児通園におけるケアのタイムスタディを行った。また、業務コードの解析と比較を試みた。

長岡療育園では重症児病棟の中に8名の超重症児の区画を設けて、超重症児のケアを行っている。長岡療育園でのタイムスタディの結果の一部を、芦北学園発達医療センターでの昨年度の超重症児室、本年度の通園センターでのタイムスタディの結果の一部と比較検討した。

A. 実施日

- （1）超重症児：平成20年2月7日8：30～
2月9日8：30 長岡療育園
- （2）通園：平成20年2月26、27、28日 芦北学園発達医療センター通園センター

B. 対象利用者

- （1）長岡療育園 8名（2月7日～9日）
- （2）芦北学園発達医療センター 14名（26日）、12名（27日）、13名（28日）

今回ケアを解析した対象職員（いずれも看護師1名）が関わった利用者は以下の表の通りであった（芦北学園 超重症児：表1-1, 2, 3；長岡療育園 超重症児：表2-1,

2；芦北学園 通園：表3-1, 2, 3）。

業務コードは昨年同様、

A1～10：相談支援・ケアマネジメント業務

B1～50：専門的生活介護業務

C1～20：治療・健康管理業務

D1～24：社会参加支援業務

E1：地域生活支援業務

F1～3：その他の業務

を用いた。

C. 結果

文末に（1）芦北学園発達医療センターの超重症児（昨年実施分）、（2）長岡療育園の超重症児、（3）芦北学園発達医療センターの通園利用者に対するケアのうち看護師によるものを掲載した。

（1）～（3）の利用者のケアの業務コードのうちBコードとCコードの解析結果を以下に示す。

Bコード（専門的生活介護業務）では、芦北、長岡の超重症児で、B8（排泄介助）とB14（体位交換介助）が共通して多かった（表4、5、6）。

Cコード（治療・健康管理業務）では、芦北、長岡の超重症児でC3（口腔・鼻腔吸引）

C5（経管栄養）C8（吸引等準備）C9（吸引等実施）が共通して多かった。芦北の通園のID24の利用者（超重症児）もC5，8，9が多かった（表7、8、9）。

D. 考察

昨年度と今年度、超重症児と通園利用者のケアのタイムスタディを行った。結果の解析は不十分であるが、看護師によるケアは2施設の超重症児で似た傾向が見られた。通園の利用者は1日15人のうち重症度が日によって異なるため、今年度3日連続でタイムスタディを行った。通園のID24の利用者は気管切開を受けた超重症児で、入所の超重症児と似たケアが伺えた。さらにデータの解析を進めたい。

E. 補足

BコードとCコードの内容を以下に示す。

Bコード

B3：清潔・整容 介助、準備、片付け
B6：更衣 介助、準備、片付け
B8：排泄 介助、準備、片付け
B10：食事 声かけ、
B11：食事 介助、準備、片付け
B14：体位交換 介助、準備、片付け
B15：移乗 見守り
B17：移乗 介助、準備、片付け
B20：移動 介助、準備、片付け
B23：姿勢保持 介助、準備、片付け
B26：補装具着脱 介助、準備、片付け
B32：測定 介助、準備、片付け
B33：代理行為 見守り
B35：代理行為 介助、準備、片付け

B36：環境整備 見守り
B38：環境整備 介助、準備、片付け
B39：ナースコール対応
B40：寝具リネン交換
B41：洗濯
B45：挨拶・対話
B49：その他見守り

Cコード

C1：投薬
C2：口腔・鼻腔吸引 準備、片付け
C3：口腔・鼻腔吸引 実施
C4：経管栄養 準備、片付け
C5：経管栄養 実施
C7：自己導尿 実施
C8：処置 準備、片付け
C9：処置 実施
C10：検査・測定
C16：感染予防
C17：機能訓練
C19：作業療法
C20：その他訓練等

表1-1 芦北学園発達医療センターの超重症児室の対象利用者（平成18年度）

ID	3	4	6	8	9	11
年齢	22	42	19	20	50	58
性	M	M	M	M	M	M
病名	溺水 後遺症	脳性麻痺	致死性 異形成症	脳性麻痺	脳性麻痺	脳腱 黄色腫症
超重症児スコア	34	35	27	27	30	14

表1-2

ID	12	14	15	17	19	23
年齢	28	20	10	54	20	18
性	M	M	M	M	M	F
病名	脳性麻痺	脳性麻痺	ネマリン ミオパチー	脳性麻痺	先天性 水頭症	硝子様 線維腫症
超重症児スコア	30	32	39	27	30	39

表1-3

ID	26	27	28	31
年齢	42	63	12	24
性	F	F	F	F
病名	脳性麻痺	ダウン 症候群	脳性麻痺	低酸素性 脳症後遺症
超重症児スコア	14	34	29	39

表2-1 長岡療育園の超重症児室の対象利用者（平成19年度）

ID	1	2	3	4
年齢	4	5	4	16
性	M	M	M	M
病名	脳炎後遺症	低酸素性脳症	先天性 横隔神経麻痺	痙性四肢麻痺
超重症児スコア	37	29	26	47

表2-2

ID	5	6	7	8
年齢	23	34	17	22
性	M	M	F	F
病名	脳性麻痺	DRPLA	脳幹小脳 動静脈奇形	脳性麻痺
超重症児スコア	40	39	29	45

表 3-1 芦北学園発達医療センターの通園の対象利用者（平成19年度）

ID	3	4	5	6
年齢	48	5	21	43
性	M	M	M	M
病名	精神運動 発達遅滞	頭蓋内出血 後遺症	脳性麻痺	精神遅滞

表 3-2

ID	7	9	13	18
年齢	36	36	51	42
性	F	M	M	F
病名	ダウン 症候群	ダウン 症候群	脳性麻痺	脳性麻痺

表 3-3

ID	24	25
年齢	20	11
性	M	F
病名	脳性麻痺	脳性麻痺

表 4 芦北 超重症児 Bコード(各利用者へのケア回数)

Bコード	ID3	ID4	ID6	ID8	ID9	ID11	ID12	ID14	ID17	ID19	ID26	ID28	ID31	ID15	ID23	ID27
3	2	1			2	5	4		2		2	6				
6	2						3		8							
8	3		3	2		3	4	4	8	2		8				
14	1	1	2		1	4	2	2	1	1		3				
20							2	1	1							
32							1	2	2						1	
40								1	2			2				

表5 長岡 超重症児 Bコード (各利用者へのケア回数)

Bコード	ID 1	ID 2	ID 3	ID 4	ID 5	ID 6	ID 7	ID 8
3			1					
6	1							
8	16	4		1	3	1		10
14	3		1	2	3			10
17		5	2	3		1		9
20	1	7						
23		1						2
26								1
32		2			1			1
33	1							
35			1					
36	1							
38	2	1	2	1				2
39		5						
40		1						1
41		1						
49		2						

表6 芦北 通園 Bコード (各利用者へのケア回数)

Bコード	ID 3	ID 4	ID 5	ID 6	ID 7	ID 9	ID 13	ID 18	ID 24	ID 25
3				1			2		5	
6			1						1	
8									1	2
10										
11	5						26			
15	1									
17		1	1					2	5	
23									2	
32		1	2	4					6	
45				8		2				
49		27	40						16	